

はじめに

調査対象

集計期間

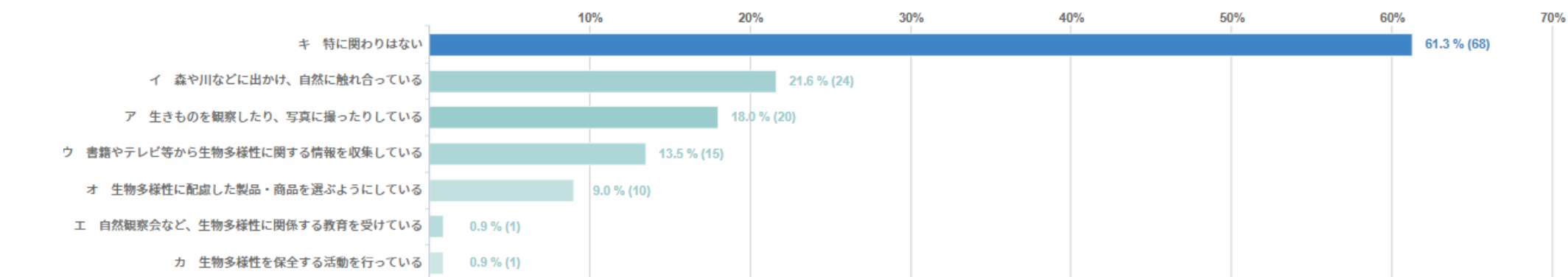
生物多様性に関する流域連携のキックオフフォーラムを開催するにあたり、今後の生物多様性の保全活動の参考にするため、暮らしと自然のつながり、森里街川のつながりに関する意識調査を行った。

- ①セルフアンケートツールQuestantによりランダムに選出された一般の方 →ランダム調査
②当センターのメールマガジン読者、スタッフ関係者 →センター経由調査

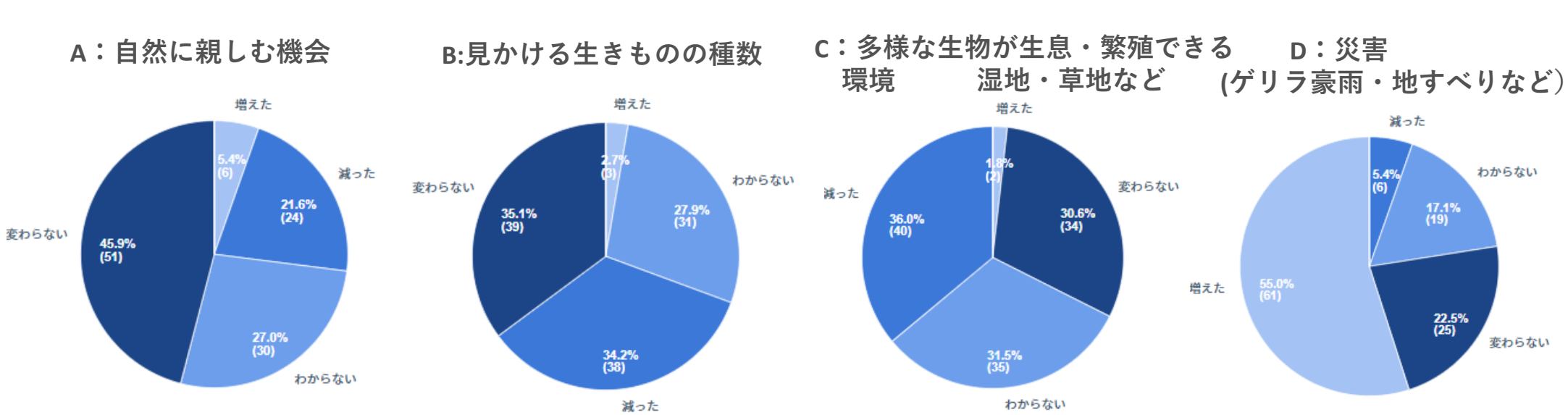
- ①令和7年1月29日～2月7日（10日間） ②令和7年2月3日～2月16日（14日間）

結果①ランダム調査（回答数111件）

Q1. わたしたちは、生きものや自然の恵みを得て、暮らしや文化を育んできました。あなたは普段、生物多様性や自然・生きものとのどのように関わっていますか？（※複数回答可）



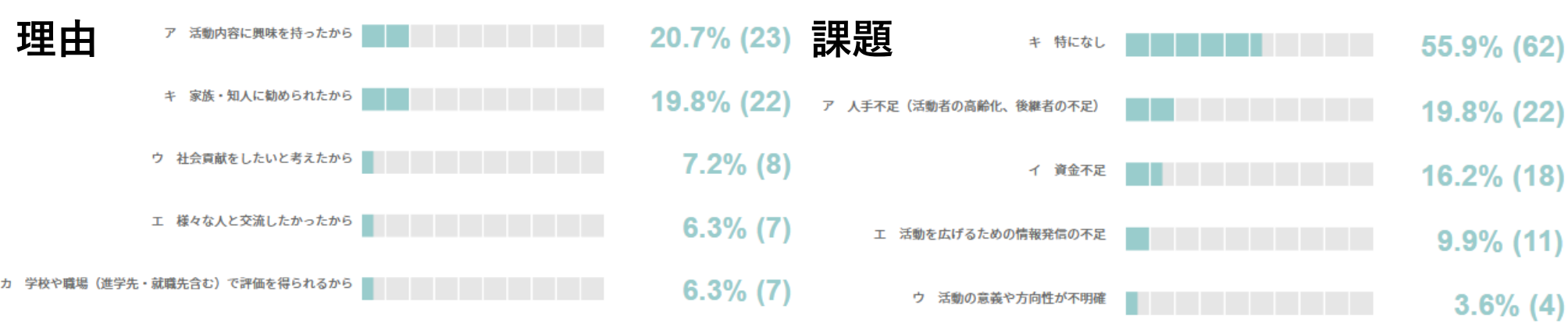
Q2. 近年、人の暮らしの基盤である京都の自然環境にも変化が見られます。京都の自然環境の変化について、以前と比べて、あなたはどのように感じていますか？



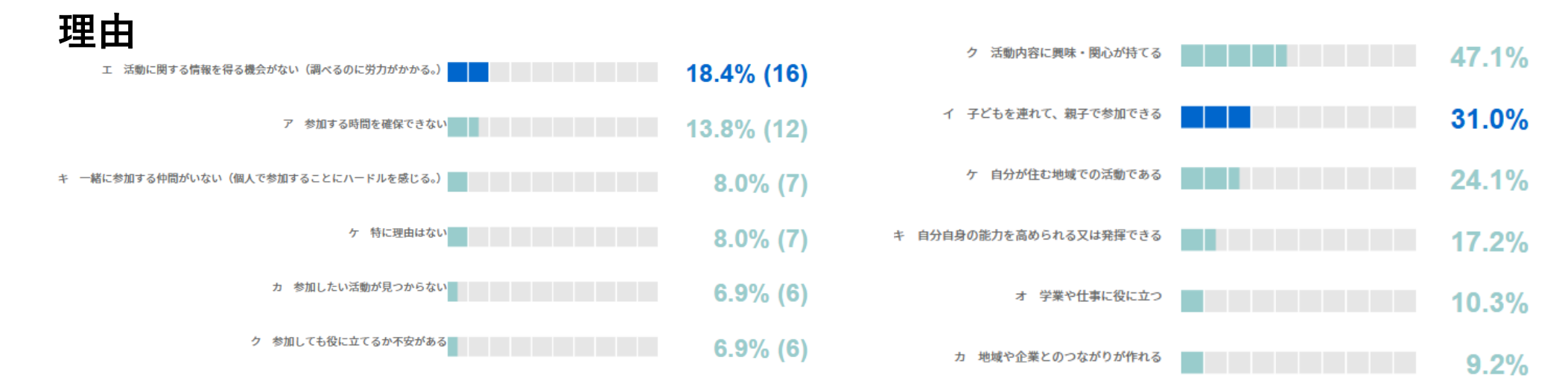
Q3. あなたは、これまでに生物多様性に関する保全活動に参加したことがありますか。



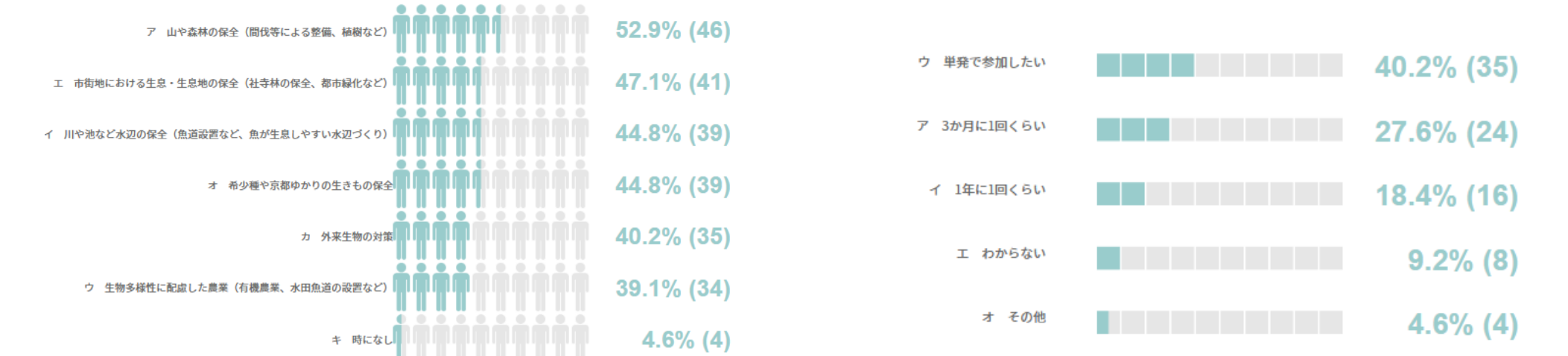
Q4. (Q3で「ある」と答えた方) 活動に参加しようと思った理由は何ですか。また実際に活動に参加して、活動の継続・発展に向けて、どのようなことが課題だと感じましたか。



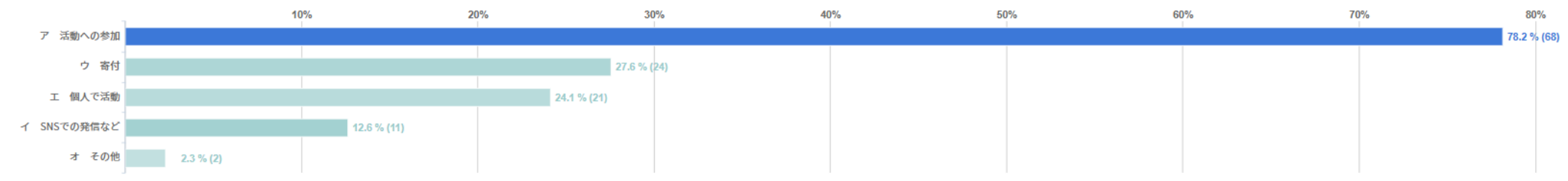
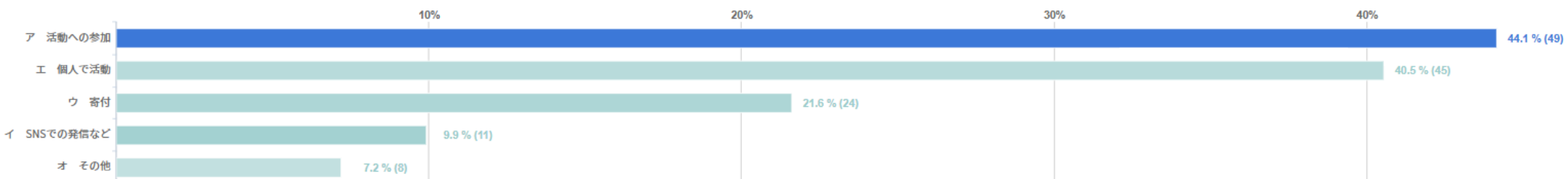
Q5. (Q3で「イ ない」と答えた方) 参加しない理由は何ですか。また、どのような場合であれば、活動に参加しやすくなりますか。



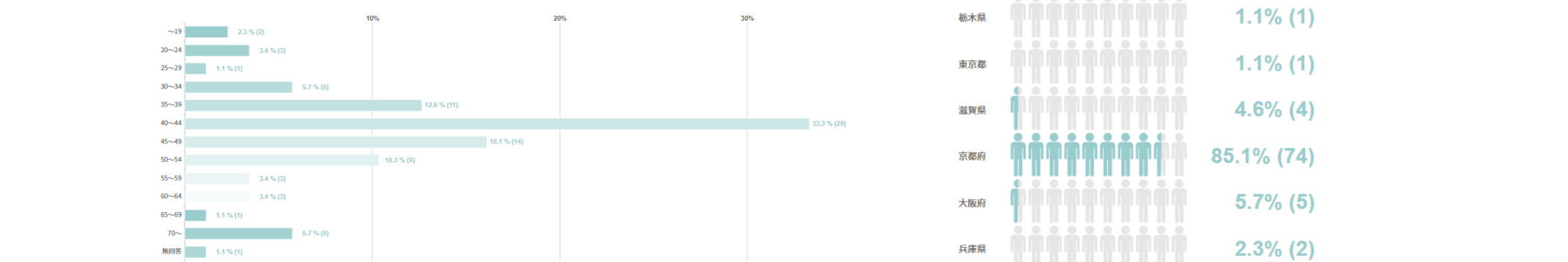
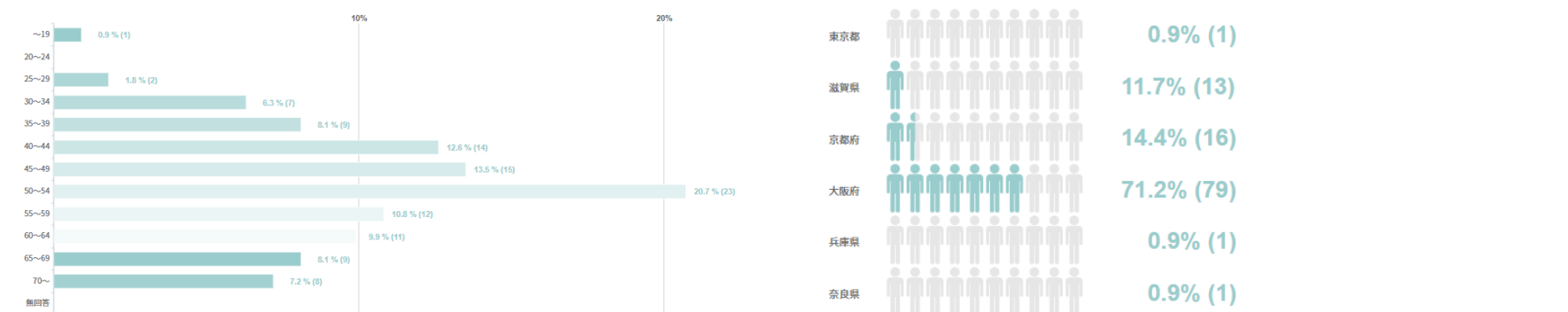
Q6. あなたは次のうち、どのような生物多様性保全の活動に興味がありますか。(※複数回答可) また、興味を持てる活動があった場合、どのくらいの頻度で参加したいですか。



Q7. 生物多様性の保全活動に興味のある方にお尋ねします。活動に関わるとしたら、どのような形で関わりたいですか。



Q8. 年齢と都道府県



まとめ

- ・ランダム調査において、生物多様性への関心や関わり方の少なさが顕著であった
- ・2パターンを比較すると、関心のある層の方が、京都の自然・環境の変化に対して、劣化していると感じている割合が多かった
- ・どちらの層においても活動への関わり方は、活動への参加として関わりたいが多かった
- ・広く興味関心を持ってもらえるような活動を企画し、住む地域の周辺へのPRなど周知に力を入れること、また子どもが参加しやすい保全活動を行うと生物多様性保全への関心が高まっていくと考えられる。